

第3回蒲田駅周辺地区基盤整備研究会 意見要旨

資料項目	ご意見	区の考え方
2 検討スケジュール	<p>令和3年度後半に、蒲田GDの素案、改定案の内容をフィードバックするための蒲田駅周辺地区基盤整備研究会（以下「研究会」という。）開催の予定はあるのか。</p> <p>基盤整備方針の策定は2022年度になるが、周辺開発に影響を及ぼす課題については、早期に方針を確定すべき。</p>	<p>基盤整備方針の更なる深度化を図るため、現在改定に向けた検討を進める蒲田駅周辺地区グランドデザイン（以下「GD」という。）と整合を図るため、策定を延期させていただきます。引き続き研究会を適宜開催し、ご意見をいただきながら検討を進めてまいります。なお、以降の進め方については第4回でお示し致します。</p> <p>JR・東急蒲田駅や駅前広場だけではなく、周辺街区とも連携を図りながら、整備を進めることが重要と考えています。可能な限り周辺街区の整備に影響が生じないように、事業者や地域の声に注視しながら、調整・検討を進めてまいります。</p>
3 蒲田駅周辺地区グランドデザインにおけるまちづくりの方向性	<p>拠点（蒲田駅中心）周辺の交通ネットワークを図示すれば、「4.基盤整備イメージ」とのつながりがよりわかりやすくなるを考える。（人の流れ、賑わいの創出軸など）</p> <p>「安全、快適な回遊を促す」ための手段として、歩車分離、複数動線確保等の手段を具現化するべきと考える。</p>	<p>蒲田駅周辺地区全体の交通ネットワークを踏まえ検討しているところですが、ご意見を踏まえ、資料を追加するなどを行い、まちとのつながりが理解できるよう示してまいります。</p> <p>基盤施設の整備においても、駅からまちへ「安全で快適な回遊を促す」という視点は、重要であると考えています。歩行者空間のあり方については、駅前広場や各道路の特性等を踏まえ、検討を進めてまいります。</p>
4 基盤整備コンセプトと盤整備イメージ	<p>駅前広場について、初動期整備との関係や交通結節点に必要な機能（需要）について整理のうえ、検討を深度化されたい。</p> <p>「北側通路の機能強化に向けた検討」については、機能強化に向けた再整備検討がゴールではなく整備することを目指すべき。</p> <p>自由通路からまちに至る、歩行者動線の望ましい在り方を整理されたい。</p>	<p>JR・東急蒲田駅東口の初動期整備との関係や交通結節点に必要な機能について、引き続き検討の深度化を図ってまいります。</p> <p>北側通路はJR・東急蒲田駅北側において東西を結ぶ、ネットワークの重要な一つであると認識しております。整備の手法等について、現在の地下通路の所有者である東日本旅客鉄道株式会社と今後連携して検討を進めてまいります。</p> <p>東西自由通路は蒲田地区東西を結び駅とまちを繋ぐ重要な動線となります。歩行者流動や交通ネットワーク等を踏まえ、歩行者動線の望ましい在り方について引き続き検討してまいります。</p>

	<p>東西のまちの連携強化を図るためには、「東西自由通路をデッキレベルに整備」するだけでなく、その波及効果をそれぞれのエリアに面的に広げるための基盤整備が必要であると考えます。</p> <p>「新空港線から他路線への円滑な乗り換え動線の確保」の注釈が平面図の東急プラザビルを指しているが、新空港線の大まかなルート、凡例などが平面図に記載されていないため、分かりにくいのではないかと考えます。</p>	<p>J R・東急蒲田駅の基盤整備により創出される活力やにぎわいを周辺地区に波及させるため、地区の東西を繋ぐ都市軸等の骨格を設定し、都市軸から周辺へ波及するような取り組みについて、引続き検討し改定を進めているGDにおいて方向性を示してまいります。</p> <p>本図では新空港線のルート等が記載されていないため、今後、誤解が生じないように、注釈を入れるなどの修正を行ってまいります。</p>
自由意見	<p>基盤整備方針の検討・策定にあたっては、上位計画である「大田区都市計画マスタープラン」や「蒲田駅周辺地区ランドデザイン」と一貫性のある連動した計画となるよう、引き続き連携を図って進めていただきたい。</p>	<p>上位計画との整合性、まちづくり構想と一貫性のある計画となるよう、引き続き、検討組織間で連携を図ってまいります。</p>
	<p>台風等による浸水リスクを加味した歩行者動線を検討するべきと考えます。</p>	<p>蒲田駅周辺地区は災害時の対策の中心となる区役所を有し、また、住民・就業者・学生などが集中する地区であることから、J R・東急蒲田駅の駅・駅広や駅周辺街区だけではなく、まち全体として災害に強いまちづくりが求められており、改定を進めているGDにおいて方向性を示してまいります。</p>
	<p>浸水時、災害時、交通機関の機能停止時に、駅直結の屋根がある避難場所が必要と考えます。</p> <p>車いすやベビーカーを使用する方にとっても、より駅から街へ歩きたくなる施策を実施するべきと考えます。</p>	<p>高齢者・障がい者・子ども・外国人などの誰もが利用しやすい、ユニバーサルなまちづくりは不可欠であることから、改定を進めているGDにおいて方向性を示してまいります。</p>